日本イスパニヤ学会

Asociación Japonesa de Hispanistas

会報第10号 / Boletín Núm.10

2005年12月31日 / 31 de diciembre de 2005

事務局
〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10
ｱｰﾊﾞﾝ大塚3F (株) ガリレオ
学会業務情報化センター 東京オフィス内
Tel:03-5907-3750 Fax:03-5907-6364
e-mail:g004esp.mng@galileo.co.jp
ホームページ http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajh/

編集部
〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学びわこ・くさつキャンパス
山崎信三研究室 Tel:077-561-4698
e-mail:syt01444@ba.ritsumei.ac.jp

巻頭言

東谷 穎人（神戸外大名誉教授）

数年前のことだが、19世紀スペインの著名な博物学者Marcos Jiménez de la Espada（1831-98）の残した手つかずの資料が、百年以上の歳月を経てCSICの資料室で発見されたとのニュースが、スペインのマスコミで報じられた。マドリードの有力紙EL PAISもこれを文芸欄で特集としてとりあげ、かなりのページを割いて詳しく報じていたから、お読みになった方も多いことと思う。

このJiménez de la Espadaなる人物、当初気鋭の爬虫類学者として学究生活を始めるが、32歳の時、研究室に閉じこもったままの平穏無事な生活に飽きたらず、わずか3名の研究仲間を従え、1864年にエクアドルのGuayaquilを起点として、様々な苦難をのりこえ南米大陸を横断し、ついにはブラジルのBelémに到着し、実地踏査で多大な研究成果をあげた。動植物の採集と観察はもちろん、ケチュア語を習得したうえ、現地の人々の風俗や生活を体験するなど、同時代のダーウィンやフンボルトに比肩するほどの、貴重な資料と新しい知識をヨーロッパの学会にもたらした人物である。当時のスペインはイサベル2世の時代であり、ちょうど植民地の独立がつぎつぎ達成されていくなか、各地で旧宗主国スペインとの間の武力衝突が頻繁に繰り返され、丸腰の研究者が旅行することなどきわめて危険な時代でもあった。彼はなんと8万点にもおよぶ資料を収集し、そのほとんどが現在でもマドリードのJardín Botánicoをはじめ、いくつかの博物館に保存されている。彼は当時まだ開発されたばかりの写真技術にも注目し、この踏査隊に写真の専門家を入れるなど、常に時代を先取りし、未知の世界に挑戦していく冒険家の魂を持った人物でもあった。今回発見された資料のなかに、400点ほどの貴重な写真資料が残されていたのはとても興味深い。まさにEspadaなる勇ましい名字にふさわしい、快男児であったといえる。

さて、時代と場所が変わって、大正5年（1916）の旧制東京外国語学校。笠井鎮夫先生の回想録『スペイン語初学記』（昭森社、1962）から引用させていただくと、「入学式のとき、頬に黒い髯を蓄えた長身中肉の品の良い外人教師の姿が目についたが、その白皙有髯の紳士こそ、スペイン人ドン・ゴンサロ・ヒメネス・デ・ラ・エスパダ先生だった。・・・エスパダ先生はスペインの旧都サラマンカ生まれ、三十三歳のとき日本政府の招聘により

東京外国語学校教師として来日されて以来、すでに八年間本校に教鞭をとっておられるとのことだった。私はこういう風采の立派な、気品の高い外人教師について学ぶことができるのを何よりも嬉しく思った」とある。私が EL PAI S の特集記事を読んで、すぐに思い出したのは、この笠井先生の本の一節だった。なるほど、かつての快男児、博物学者 Jiménez de la Espada の子息であれば、“風采が立派で、気品の高い” スペイン人教師であったことは想像に難くない、と。永田寛定先生や笠井先生など、卓越した力量をもつイスパニヤ学会の草分けを育てられたエスパダ氏は、8年あまりの日本での生活のあと、残念ながら離日されている。ちなみにすぐにこの後を継がれたのが、当時 29 歳の José Muñoz 先生であった。

これには後日譚がある。私の勤務校神戸外大とオルテガ研究財団との交換教員として 1990 年に来日したのが、José Pazó 君。マドリード自治大の博士課程修了で当時 30 歳そこそこ、スラリとした長身で、品のいい教養豊かな“白皙”の好青年であった。いろいろ話をしているうちに、彼の祖母の名字が Jiménez de la Espada だと言う。気になったので、いろいろ聞き質してみると、私の勘が見事に的中し、あの東京外語のエスパダ先生は彼の曾祖父に当たることが分かった。日本文化への理解の深さ、未知の世界への知的好奇心の強さなど、やはり Espada 家の伝統だ、と妙に感心したものである。ちなみに彼の祖母，つまり博物学者の孫であり、東京外語のエスパダ先生の娘である Ana さんは横浜で生まれ、90 歳を超えた現在でも矍鑠としておられる。私がマドリードのお宅を訪れると、少女時代の日本の思い出をいまでも楽しげに語ってくれる。

博物学者 Jiménez de la Espada の人となりを伝える EL PAIS の記事のなかに、”Los descendientes de Jiménez de la Espada ·Ana, Ricardo y Mario, tres nietos de avanzada edad· están entusiasmados con la recuperación de su antepasado que han dado todos los documentos y diarios de viaje que tenían en su poder.” とあった。それまでマドリードで何度もお会いしたアナおばあちゃんの、人なつっこい笑顔を一瞬思い出したものである。

エスパダ先生の時代にまではさすが遡れないものの、東京外語の Muñoz 先生、大阪外語の Alvarez 先生などすでに鬼籍に入られた先生方から、私たちの世代の学徒が受けた師恩は深い。この短文を、スペイン語圏からやってきたすぐれた恩師の方々への、ささやかなオマージュとしたい。

日本イスパニヤ学会　2005 年度第２回理事会議事録

2005 年 9 月 18 日（日）13 時～16 時 40 分

愛知県立大学サテライトキャンパス（愛知県中小企業センター）

出席：川上茂信、斎藤文子、竹村文彦、田尻陽一、西川喬、堀田英夫、柳沼孝一郎、山崎信三、

庶務委員：糸魚川美樹、塚原信行

欠席（委任状）：大髙保二郎、片倉充造、佐竹謙一、清水憲男、Antonio Ruiz Tinoco、木村琢也、（中岡省治）、角田哲康

【報告事項】

会員名簿（住所録）作成について：ガリレオからの名簿作成進捗状況：

9月15日現在の会員状況	会員数	名簿カード返信者数
正会員	407	56
海外在住会員	8	0
賛助会員	13	1
購読会員	15	
寄贈会員	1	
合計	444	57

（なお、正会員中、７名は９月15日現在会費未納）

【審議事項】

1)　議事録確認：2005年5月15日第1回理事会、メールによる臨時理事会：各議事録了承。

メールによる臨時理事会審議・報告事項抜粋(2005年度第1回理事会後)

6月 2日、14日　入会審議計２名。有田美保、VILLEGAS MUÑOZ, GERARDO

6月29日　事務局所在地のガリレオ東京オフィスへの移転。

7月 7日　10月度正式契約書案提示。

7月14日　みずほ銀行『ビジネスWEB』申し込みについて

7月19日　旧学会事務センター破産廃止決定の報告

---

2)　会員異動、新入会員の承認

2-1)　メールによる臨時理事会で承認済み分:

5/18	有田美保	桜美林大学	言語、ｽﾍﾟｲﾝ・ｲｽﾊﾟﾉｱﾒﾘｶ
6/1	VILLEGAS MUÑOZ, GERARDO	大阪経済大学人間科学部	言語、歴史、政治、社会　ｲｽﾊﾟﾉｱﾒﾘｶ

2-2)　入会希望者：８名の正会員と１社の賛助会員の入会了承。

2005/7	株式会社 弘学社	賛助会員	
2005/8/17	山辺 弦	東京大学大学院　総合文化研究科	文学　イスパノアメリカ
2005/8/27	那須　まどり	国際基督教大学、東京大学（非常勤）	映画・現代史　スペイン
2005/8/ 8	伊藤　秋江	愛知県立大学大学院　国際文化研究科	文学　イスパノアメリカ

９月受付

・石川保茂　(Ishikawa Yasushige)（京都外国語大学、CALL、選択体系機能言語学・応用言語学）

・河上志貴子(Kawakami Bonnie Jennifer Shikiko)（京都大学学術情報メディアセンター・CALL・日本文学）

・坪田康　(Tsubota Yasushi)（京都大学学術情報メディアセンター・CALL・音声情報処理）

・壇辻正剛　(Dantsuji Masatake)（京都大学学術情報メディアセンター・CALL・音声学・応用言語学）

・又吉和魅 (Matayoshi Kazumi)（清泉女子大学大学院、スペイン語学）

2-4)　退会者の報告:2004年度末退会者　木原太源(第1回理事会報告済)、7月分:原 誠)、（株）芸林書房（賛助会員）、（株）国書刊行会営業部（賛助会員）、片山 るい

3)　今年度(2005年度)大会について　神田外語大学　:10月8日(土)・9日(日)

3-1)　「大会における共同研究に基づく発表についての申し合わせ」について、投稿規定とも合わせて検討の結果、以下のように承認された。

大会における共同研究に基づく発表についての申し合わせ

1．発表者として名前を連ねる者は全員が本学会会員であり、内容について共同して責任を負う。

2．原則として、最初に記載された発表代表者が口頭発表を行う。

3．発表者に名前を連ねないが、共同研究者として非会員が加わった研究の発表であっても良い。この場合、共同研究者名は、プログラムに掲載しない。またハンドアウトには、注の中や末尾にのみ掲載可能とする。また当該共同研究者はこの発表を業績とすることはできない。

4．1人の会員が、1大会の2件以上の発表で発表代表者（単独発表の発表者を含む）となることはできない。

2005年度第2回理事会（2005年9月18日）了承

3-2) 大会プログラム

講演：Aurelio Asiain（在日メキシコ大使館文化担当官）"Octavio Paz y su visión de Japón"（オクタビオ・パスの日本観）

研究発表：スペイン語と直接の関連を認めがたいという1件を除き、17件を了承。種々審議の結果、柳沼理事が改定案をメーリングリスト上で提案し決定することとし、継続審議とした。

3-3) 研究発表司会：以下のように決定。

1日目＜言語＞西川喬、＜文学＞本田誠二、＜スペイン語教育＞江藤一郎

2日目＜言語＞川上茂信、＜文学、文化＞斎藤文子、＜スペイン語教育＞山崎信三

3-4) プログラム発送、同封文書：返信葉書、出張依頼状、名簿データ催促（ガリレオ作成）を柳沼理事がガリレオにデータを送付し、ガリレオから各会員に送付することが確認された。

4) HISPÁNICAについて

4-1) 第49号　言語6件、文学2件、文化0件、研究ノート1件の掲載決定が編集委員長田尻理事より報告。また、今年度の大会における基調講演原稿の掲載が確認された。

4-2) 「投稿規定」と「編集委員会の申し合わせ事項」の改訂について

田尻理事より投稿規定の改訂案が示され、第3項については、「一人の会員は、単著あるいは共著の代表者としていずれかの形で機関誌1号について投稿は1本とする」と改訂することが確認された。またその他については提案通りに了承された。

「編集委員会の申し合わせ事項」に関しては、提案どおり、「(7) 編集委員が投稿する場合は、投稿締め切りの2ヶ月前までに編集委員長に申し出て、当該年度の編集委員を辞退する。委員が辞退し、委員長が必要と認めた場合、当該年度末までを任期とする編集委員を会員の中から理事会が委嘱する」の追加が了承された。

4-3) 発送先（現状：会員、定期購読16件、寄贈1件）：国立国会図書館は寄贈でなく紀ノ国屋書店経由の支払いであること、奈良県立図書館が新規購読申し込みをしていることが報告。また寄贈先1件追加了承。また、49号の発送は引き続き弘学社に委託することが確認された。

Instituto Cervantes
Departamento de Bibliotecas y Documentación
C/ Libreros, nº 23
28801 Alcalá de Henares　ESPAÑA
Teléfono: 91 885 61 25, Fax: 91 883 08 14
Correo electrónico: bibdoc@cervantes.es

5)　会報（次号）について
山崎理事より、次号の内容について、大会報告等以外については未定であり、巻頭言執筆者の推薦を求めていることが説明された。会報の位置づけや発行時期について再考してはどうかという意見があり、種々議論の結果、内容については機関誌との重複を認めつつも差異化を検討していくこととなった。

6)　事務委託契約書について
機関誌発送事務は、今年度弘学社に依頼することが確認されている現状で、契約書の付属文書記述は問題にならないかどうか、またこれらをガリレオに委託しない場合の事務委託費について質問が出された。堀田会長がこれらの点についてガリレオと協議することが確認された。また、委託に関しては、次回総会で報告とすることが確認された。

6-1)　HP の更新、会員メーリングリストの運営について、付属文書の内容が確認された。

6-2)　会費のカード決済については、口座振替との関係について質問があり、継続審議とされた。

7)　関係団体との担当理事：地域研究学会連絡協議会担当理事を柳沼孝一郎理事にお願いすることを決定。

8)　奨励賞(仮称)の創設について
堀田会長から提案趣旨説明が行われた。種々議論の結果、以下の点が基本的に了承された。

a)　奨励賞は、該当年度 HISPÁNICA 掲載論文を対象として、掲載決定から該当年度大会までに理事会で選考を行い、大会総会で発表および表彰を行う。

b)　受賞者は単年度につき最大３名までとし、賞状と副賞（５万円）が授与される。

c)　名称は「日本イスパニヤ学会奨励賞」とする。副賞については学会財政との関連でその可能性を確認し、その他詳細については、以上の点を踏まえ、再度規定案作成の上、継続審議に付すことを承認。

9)　理事及び監査選挙内規の改訂
前回理事会の議論を踏まえて、内規改定案が堀田会長より提案された。このうち東西選挙区の廃止については理事間での意見の一致が見られず、次回第３回の理事会での継続審議とし、その結果次第ではこの点に関する改定も総会に諮ることが確認された。

10)　理事選挙管理委員会の設置：選挙管理委員長への竹村文彦理事の就任が承認された。

11)　会計報告案

12)　2006 年度予算案：会計報告案および 2006 年度予算案については、次回理事会までにメーリングリスト等を通じて角田哲康会計担当理事から提案することとされた。

13) 2005年度総会議案：次回総会の議案、おおむね了承。

議題 1) 事務委託契約について（会員メーリングリストの発足）

2) 会則の変更（会則第１４条）事務局所在地の変更、（選挙区の一元化）、付則部分の整理。

3) 会計報告（会則第１３条）

4) 奨励賞の創設について

5) 2006年度予算案

6) 次回大会

14) その他：2006年度総会開催校を打診することとした。

日本イスパニヤ学会　2005年度第3回理事会議事録

2005年10月8日（土）11時－12時40分　神田外語大学

出席：川上茂信、木村琢也、斎藤文子、佐竹謙一、清水憲男、角田哲康、竹村文彦、中岡省治、西川喬、堀田英夫、柳沼孝一郎、山崎信三、Antonio Ruiz Tinoco

監査：寺崎英樹、三好準之助

庶務委員：糸魚川美樹、塚原信行

欠席（委任状）：田尻陽一、片倉充造、大高保二郎

【報告事項】

特になし

【審議事項】

1) 議事録承認

2005年9月18日第2回理事会議事録　承認。

2) 会員異動

2-1) 新入会員の承認：なし

2-2) 退会者の報告：Francisco Fernández

2-3) 会員資格喪失者

この10月に今年度二回目の会費督促をガリレオを通じて行う。「会則第6条3会費を3年間滞納した場合は会員の資格を失う」に従い、海外在住会費4年以上滞納者1名は、経費の関係から、会費請求を行わずに退会扱いとしたい。国内会員は、二回目催促の結果を待ち、今年も含め4年以上滞納者は退会扱いとしたいと提案。了承。

3) HISPÁNICAについて

来年度の印刷、発送、在庫管理など、ガリレオと弘学社とで見積もりを出してもらい来年度の新理事会で検討するとの提案。承認され、次年度理事会への引継ぎすることとした。

4) 会報（次号）について
山崎理事より報告。全体状況は前回理事会時と大差なく、巻頭言については執筆者検討中とのこと。

5) 事務委託契約について
ガリレオとの現在の契約は 10/8 まで、総会で承認を得た後、10/9 付けでの自動更新条項を含む年度毎契約を結ぶことが確認された。

5-1) HISPÁNICA 関連の経費と事務委託経費との関連について
前回理事会で出された意見（「機関誌発送事務は、今年度弘学社に依頼することが確認されている現状で、契約書の付属文書記述は問題にならないかどうか、またこれらをガリレオに委託しない場合の事務委託費について」2005 年度第２回理事会議事録 6）より）について、ガリレオから、「全体で算出した見積もりであるため一部分を除外することは困難であること、付属文書記述は問題にならないとの回答の報告。関連して、個人情報保護に関する社内規定のため、弘学社への宛名シール送付は一定の手続きを踏む必要がある」という旨の回答があったことが報告された。

5-2) カード決済について
海外からの振込については有用であると判断しすすめることが確認された。また、銀行引き落とし等に関してはガリレオによる調査中である旨報告された。

6) 奨励賞の規定案について（別紙）
第３条(2)について、「投稿締切日に大学院生である者、または大学院を修了し、投稿締切日に常勤職（任期のあるなしを問わない）に就いていない者。」と修正し、また同(3)については「理事会が指定した日までに奨励賞申請書（有資格届（A４　一枚に氏名、会員番号、住所等連絡先、履歴、主な業績、指導教員名を記載。資格あることを明記し、自署で申請する。和文または西文）を提出した者。）と修正、第４条については「受賞年において発刊された、または編集が終了した機関誌 HISPÁNICA 掲載論文を選考対象とする。」と修正したうえで承認。総会に諮ることを確認。
副賞の５万円（年度毎最大 15 万円の支出）については、予算を作成した結果可能であることが報告された（日本イスパニヤ学会 2006 年度会計案参照）。

7) 会則の変更
事務局所在地の変更、選挙区の一元化、付則部分の整理のうち、選挙区一元化は 8）で扱い、ひとまず、それ以外について了承され、総会に諮ることが決定された。

8) 理事及び監査選挙内規の改定
選挙終了時期を早める、会長選挙内規制定、A 案　全国区、B 案　東西二選挙区のまま種々議論の末、選挙区は B 案（現行制度のまま）とし、改定案を了承した。

9) 理事選挙管理委員会の設置
選挙管理委員長：竹村文彦理事、選挙管理委員２名：斎藤文子理事、上田博人氏と決定。

10) 会計報告案(別紙)
2004 年度会計報告案が会計角田理事から形式が例年と一部違う点などの事情説明がされ、三好準之助監査より会計報告に問題がない旨報告。理事会として了承した。
なお、会報第９号 12 頁の 50 周年記念大会会計報告について、支出総計 2,465,849 円とあるところ、2,465,850 円であること、また、これから収支差額が-23,349 円となっているところ、正しくは-23,350 円であると修正された。学会会計と大会開催校と

の間での会計報告様式の互換性を高めるため、今後の大会開催校に依頼する会計報告フォームを角田理事が今後提案することが確認された。

11) 2006年度予算案(別紙)
提案通り承認され、原案通り総会に諮ることが確認された。

12) 2005年度総会議案（別紙）
理事会での議論の結果を入れたうえで、承認された。

13) 次回大会開催校
打診した大学からは引受不可の返答があったことが報告され、引き続き引受校を募ることとした。

14) Asociación Asiática de Hipanistas からの第6回大会開催要請について
Asociación Asiática de Hipanistas の三好準之助日本地区副会長(Vice-presidente de Japón)より説明を受け、種々議論の結果、日本イスパニヤ学会としては引き受けかねるという回答を行うことが確認された。

15) その他　特になし

日本イスパニヤ学会2005年度総会議事録

神田外語大学　2005年10月8日　13時20分－14時

議長に高垣敏博氏（東京外国語大学）が選出された（拍手で承認）。

【報告事項】

1) 旧学会事務センター破産廃止決定
平成17年6月15日付けで旧学会事務センターの破産廃止決定されたことの通知があったこと、堀田会長から説明があった。

2) HISPÁNICA 投稿規定の改定
「一人の会員は、単著あるいは共著の代表者としていずれかの形で機関誌1号について投稿は1本とする」と明記した、日本語論文を15枚以内から20枚以内へ、スペイン語論文を17枚以内から23枚以内へ変更。再査読についての指示を明記などの改定を報告。

3) 大会における共同研究に基づく発表についての申し合わせ
2005年度第2回理事会（9月18日）で了承された申し合わせについて堀田会長から報告した。

1．発表者として名前を連ねる者は全員が本学会会員であり、内容について共同して責任を負う。
2．原則として、最初に記載された発表代表者が口頭発表を行う。
3．発表者に名前は連ねないが、共同研究者として非会員が加わった研究の発表であっても良い。この場合、共同研究者名はプログラムに記載しない。またハンドアウトには、注の中や末尾にのみ掲載可能とする。また当該共同研究者はこの発表を業績とすることはできない。
4．1人の会員が、1大会の2件以上の発表で発表代表者（単独発表の発表者を含む）となることはできない。

4) 名簿の作成

前年度理事会からの引継事項として、現在ガリレオを通じて会員名簿作成を行っていること、その途中経過について、堀田会長より説明があった。

5) Asociación Asiática de Hispanistas からの第６回大会開催要請について

理事会での審議の結果、日本イスパニヤ学会としては引き受けかねるという回答を行うことに決定した旨、堀田会長から報告があった。

6) その他

【議題】

1) 事務委託契約について

事務委託先を理事会の中に斎藤文子理事をチーフとする小委員会を設置し、複数候補社の見積もり等をもとに選定してきた。主として情報化の実績から、株式会社ガリレオを業務委託先として自動更新条項を含む年度毎契約を結ぶことを提案。異議無く承認された。

2) 会則の変更（会則第 14 条）　事務局所在地の変更、付則部分の整理

改訂後	改訂前
第２条（組織）本会は事務局を〒170-0004 東京都豊島区北大塚 3-21-10 アーバン大塚３F（株）ガリレオ学会業務情報化センター　東京オフィス内におく。	第２条（組織）本会は事務局を愛知県立大学外国語学部（愛知県愛知郡長久手町熊張茨ヶ廻間 1522-3）におく。
~~[A 案]第７条（役員）　本会には次の役員をおく。 1．会長１名　2．副会長１名　3．理事 16 名（会長、副会長を含む）　4．監査３名~~ [B 案]第７条（役員）　本会には次の役員をおく。 1．会長１名　2．副会長１名　3．理事 東日本８名、西日本８名、計 16 名（会長、副会長を含む）　4．監査２名	第７条（役員）　本会には次の役員をおく。 1．会長/代表理事１名　2．副会長１名　3．理事 若干名　4．監査２名
第９条（選任）役員の選出方法および任期は次のように定める。 5．理事の任期は４年とする。隔年毎の選挙において半数交代とする。任期満了後、在任期間経過後に被選挙権を回復する。	第９条（選任）　役員の選出方法および任期は次のように定める。 5．理事の任期は４年とする。ただし隔年毎の選挙において半数交代とする。
6．監査の任期は４年とする。任期満了後、在任期間経過後に被選挙権を回復する。	6．監査の任期は４年とする。
（削除） 付則に「1994（平成６）年 10 月８日改訂。」を追加	（理事の数および第９条第４項についての申し合わせ） 1994（平成６）年 10 月８日改訂（入会手続きに関する申し合わせ）。 1．理事は東日本８名、西日本８名、計 16 名とする。 2．最初の半数交代時に理事を辞める者の任期は２年となる。当該者の選出方法は東西ブロック毎に理事の間で定める。 3．半数交代によって理事を辞めた者は４年後に、監査を辞めた者は４年後に、それぞれ理事または監査の被選挙権を回復する。
付則に「2005（平成 17）年 10 月８日改訂。」を追加	

堀田会長から会則変更の趣旨説明が行われた。選挙区の一元化に関しては、理事会審議の結果Ｂ案が提案され、原案通り承認された。

3) 会計報告（会則第１３条）
角田理事より 2004 年度の会計報告が行われ、会計報告案が承認された。
4) 監査報告
三好準之助監査より会計報告に問題がない旨報告があり、了承された。
5) 奨励賞の創設について
日本イスパニヤ学会奨励賞の創設について、その趣旨および規定が堀田会長から説明された。理事会審議の結果を反映して修正された規定案が提案され、提案通り承認された。
6) 2006 年度予算案
角田理事より 2006 年度会計案の説明があり、会計案は原案通り承認された。
7) 次回大会
次回大会開催校を募集していることが堀田会長より説明された。
8) その他
株式会社ガリレオへの業務委託については、ホームページ維持管理、メーリングリスト開設と維持管理も含むむね、堀田会長より追加説明があった。

日本イスパニヤ学会奨励賞規定

（目的）
第１条　この規定は，スペイン語諸国の言語・文学など文化一般の研究を促進し、さらなる発展に資するために、将来の活躍が期待される業績をあげた本学会会員を表彰する制度を定める。

（賞の名称）
第２条　賞の名称は「日本イスパニヤ学会奨励賞」とする。

（受賞資格）
第３条　スペイン語諸国の言語・文学など文化一般の研究に関して将来の活躍が期待される業績をあげた者で以下の条件を満たす会員。
（１）本学会機関誌 HISPÁNICA に論文(単著)が掲載された者または掲載が決定した者。
（２）投稿締切日に大学院生である者、または大学院を修了し、投稿締切日に常勤職(任期のあるなしを問わない)に就いていない者。
（３）理事会が指定した日までに奨励賞申請書(有資格届)(A4 一枚に氏名、会員番号、住所等連絡先、履歴、主な業績、指導教員名を記載。資格あることを自署で申請する。和文または西文)を提出した者。

（選考対象）
第４条　授賞年において発刊された、または編集が終了した機関誌 HISPÁNICA 掲載論文を選考対象とする。

（授賞の数）
第５条　毎年３名以内とする。ただし，授賞に該当する者がいない年もあり得る。
２．前項の規定にかかわらず、１年に２号以上の機関誌が編集された年度においては、理事会において別に定める。

（授賞対象者の選考と決定）
第６条　授賞対象者は理事会が選考し、決定する。原則として年次大会終了までに決定するものとする。
第７条　理事会は，機関誌編集委員より文書で意見を求めるものとする。
２．必要に応じてその他の者からも意見を聴取することができる。

（授賞）
第８条　授賞対象者に対し決定後速やかに通知するとともに、表彰状および副賞５万円を授与する。また、受賞者の氏名、所属(または略歴)、専門を学会ウエブページと会報で公表する。
第９条　本規定の改廃は，理事会の議決によるものとする。

付則
１．この規定は2006年4月1日から施行する。

2005年度　日本イスパニヤ学会第51回大会

期日：2005年10月8日（土）・9日（日）
会場：神田外語大学　(http://www.kandagaigo.ac.jp/kuisaboutus/ac.htm)
〒261-0014 千葉市美浜区若葉１－４－１　Tel. 043-273-1916（代表）
大会実行委員長　柳沼孝一郎

第１日目（8日・土）
理事会　11:00～12:00　（本館３階、大会議室兼大会本部室）
総会　13:00～14:00　（４号館 4-101 教室）

研究発表　２号館
＜言語＞　2-201 教室　　司会：西川喬
①14:10～14:40　又吉和魅「El léxico peruano durante los últimos 10 años」
②14:40～15:10　栗林ゆき絵「＜関係詞＝同格＞説を検討する」

— 休憩 —

③15:30～16:00　水戸博之「接続法未来の los falsos empleos について」

＜文学＞　2-202 教室　　司会：本田誠二

①14:10～14:40　前田明美「バロハの内面性と技法の関連 ― 妹カルメンの視点から」

②14:40～15:10　安保寛尚「ニコラス・ギジェンのムラートの詩におけるトランスカルチャーのアナロジー ― アクセント詩法とオノマトペに関する考察」

― 休憩 ―

③15:30～16:00　花方寿行「記念碑・里程標・文学 ― E.エチェベリーアの＜捕虜＞とパンパ占有」

＜スペイン語教育＞　2-203 教室　　司会：江藤一郎

①14:10～14:40　Arsenio Sanz Rivera "Apuntes sobre la clase de composición escrita en Español o Lengua extranjera"

②14:40～15:10　Arturo Escandón "Ambientes constructivistas de aprendizaje del Español Lengua Extranjera"

― 休憩 ―

③15:30～16:00　石川保茂・立岩礼子・河上志貴子・坪田康・檀辻正剛「英語・スペイン語同時学習型マルチメディア教材の開発 ― 自律学習型CALL」

講演会　16:20～17:20　4-101 教室

Aurelio Asiain（在日メキシコ大使館文化担当官）「オクタビオ・パスの日本観」

懇親会　17:30～19:30　（神田外語大学食堂　LA PAZ）

第２日目（９日・日）

研究発表　２号館

＜言語＞　2-201 教室　　司会：川上茂信

①10:10－10:40　下田幸男「スペイン語の TOUGH 構文について ― 機能論的分析」

②10:40－11:10　和佐敦子「直説法の反事実条件文について」

― 休憩 ―

③11:30－12:00　木村琢也・泉水浩隆・高澤美由紀・豊丸敦子「休止の長さと HLH* 音調 ― ニュース記事の朗読音声を資料として」

④12:00－12:30　三好準之助「アメリカ・スペイン語における hasta の特殊用法について」

＜文学・文化＞　2-202 教室　　司会：斉藤文子

①10:40～11:10　折井善果「ルイス・デ・グラナダにおける説教の技法 ―『信条序説』の構成と文体に注目して」

― 休憩 ―

②11:30－12:00　大楠栄三「情景の出現 ― パルド＝バサン初期小説の書き出しの考察」

③12:00－12:30　Darío González "Mestizaje Musical Ameríndico:Aparición de nuevos Ritos y Aires popularaes"

＜スペイン語教育＞　2-203 教室　　司会：山崎信三

①11:30－12:00　森本栄晴「Elementos clave para adquirir la pronunciación española」

②12:00－12:30　Gerardo Villegas Muñoz "Peculiaridades de la interlengua en aprendientes de español en un medio de no inmersión ― El caso de monolíngües japoneses y bilíngües japonés-español"

― 昼食 ―　（学食　La Paz が営業しています）

★　13:30－14:30　**神田外語大学** SALC (Self-Access Learning Center)**見学**
平成１５年度文部科学省 GP（Good Practice）に選定された自律学習支援システム SACLA:Self（自らアクセスする）、Communication（コミュニケーションする）、Learner Autonomy（自律学習）は学生に自律学習を促すセンターです。

【備考】

＊ **休憩室：２号館　2-204 教室　/ 書籍・テキスト展示場：２号館ロビー**

＊ 大学近辺には、食事をする所がありません。学食 La Paz をご利用下さい。

LI Congreso de la Asociación Japonesa de Hispanistas

Fecha: 8, sábado y 9, domingo de octubre de 2005
Lugar: Universidad de Estudios Internacionales de Kanda (KUIS)
261-0014 Wakaba 1-4-1, Mihama-ku, Chiba City, Chiba, Japón
Tel. 043-273-1916　http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/index.htlm

PRIMER DÍA (8, sábado)
Junta Directiva　11:00-12:00 (Sala de Conferencia:"Dai-kaigishitsu")
Asamblea General　13:00-14:00 (Aula 4-101, Edificio No.4)

PONENCIAS (Edificio No.2)

[LINGÜÍSTICA] Aula 2-201 Moderador: Nishikawa,Takashi

①14:10－14:40 Matayoshi,Kazumi:"El léxico peruano durante los últimos 10 años"

②14:40－15:10 Kuribayashi,Yukie:"¿La frase relativa es apositiva?"

··· Descanso ···

③15:30－16:00 Mito,Hiroyuki: "De los falsos empleos del futuro de subjuntivo"

[LITERATURA] Aula 2-202 Moderador: Honda,Seiji

①14:10－14:40 Maeda,Akemi:"Una relación entre el estiro y la personalidad de Baroja — desde el punto de vista de su hermana Carmen"

②14:40－15:10 Ambo,Hironao:"Analogía transcultural en la poesía mulata de Nicolás Guillén — análisis sobre la métrica acentual y la onomatopeya"

··· Descanso ···

③15:30－16:00 Hanagata,Kazuyuki: "Monumento-Hito-Literatura:*la cautiva* de E.Echeverría y la apropiación de la Pampa"

[DIDÁCTICA] Aula 2-203 Moderador: Eto,Ichiro

①14:10－14:40 Arsenio Sanz Rivera: "Apuntes sobre la clase de composición escrita en Español o Lengua Extranjera"

②14:40－15:10 Arturo Escandón: "Ambientes constructivistas de aprendizaje del Español Lengua Extranjera"

··· Descanso ···

③15:30－16:00 Ishikawa,Yasushigue/Tateiwa,Reiko/Kawakami,Bonnie Jennifer Shikiko/Tsubota,Yasushi/Dantsuji,Masatake: "Desarrollo de un material didáctico para el aprendizaje simultáneo de inglés-español basado en CALL:aprendizaje autónomo con ayuda de CALL"

CONFERENCIA 16:20-17:20 (Aula 4-101)

Aurerio Asiain (Agregado Cultural de la Embajada de México en Japón): "Octavio Paz y su visión de Japón"

Cena de amistad 17:30-19:30 ("La Paz",comedor de la Universidad)

SEGUNDO DÍA (9, domingo)

PONENCIAS (Edificio No.2)

[LINGÜÍSTICA] Aula 2-201 Moderador: Kawakami,Shigenobu

①10:10－10:40 Shimoda,Yukio:"Análisis funcional sobre las construcciones TOUGH español"

②10:40－11:10 Wasa,Atsuko:"Condicionales contrafácticas de indicativo"

··· Descanso ···

③11:30－12:00 Kimura,Takuya/Sensui,Hirotaka/Takasawa,Miyuki/Toyomaru, Atsuko:"La duración de pausa y el tono HLH* — un estudio fonético sobre noticias leídas"

④12:00－12:30 Miyoshi,Jyunnosuke:"Sobre el uso peculiar americano de *hasta*"

[LITERATURA·CULTURA] Aula 2·202 Moderador: Saito,Ayako

①10:40－11:10 Orii,Yoshimi:"El arte de la prédica en Fray Luis de Granada — análisis de la estructura y estilo de *Introducción del símbolo de la fé*"

··· Descanso ···

②11:30－12:00 Ogusu,Eizo:"Aparición del paisaje enfocado — análisis del *incipit* de las primeras novelas de Emilia Pardo Bazán"

③12:00－12:30 Darío González:"Mestizaje Musical Ameríndico — aparición de nuevos Ritos y Aires populares"

[DIDÁCTICA] Aula 2·203 Moderador: Yamazaki,Shinzo

①11:30－12:00 Morimoto,Yoshiharu:"Elementos clave para adquirir la pronunciación española"

②12:00－12:30 Gerardo Villegas Muñoz:"Peculiaridades de la Interlengua en aprendientes de español en un medio de no inmersión — el caso de monolingües japoneses y bilingües japonés·español"

··· Almuerzo ···

★ 13:30－14:30 VISITA a KUIS·SALC (Self·Access Learning Center)

【Notas】

* Sala de descanso : Aula 2·204
* Exhibición de libros y textos : Vestíbulo de Edificio No.2
* El almuerzo deberá realizarse en el comedor de la Universidad "La Paz" Debido a que no hay restaurantes en los alrededores de la Universidad.

日本イスパニヤ学会

２００５年３月３１日決算　　**２００４年度会計報告**

（　２００４年４月１日～２００５年３月３１日　）

収　　入		支　　出	
２００３年度からの繰越金	5,687,519	学会誌・会報発行経費	909,072
当年度会費		会議開催費	36,050
正会員	2,464,000	庶務委員経費	60,000
海外在住会員	9,000	通信・交通費	192,684
賛助会員	135,000	銀行手数料	6,300
購読会員	30,597	前年度分経費	329,836
過年度分会費	96,000	事務センター経費	612,565
前受会費	8,000	事務センター未回収金	839,018
		学会ユーティリティセンター経費	13,230
５０回大会開催費		５０回大会開催費(会報第９号参照)	
科研費	700,000	(講演者招聘費、記念 CD-ROM 作成費を含む)	
南山大学補助金	200,000	科研費分	700,632
懇親会費	560,000	グラシアン・大会開催費分	1,004,122
協賛金（教材展示出版社）	80,000	南山大学補助金分	200,000
(グラシアン基金前年度繰越)	(602,500)	懇親会費分	561,096
(大会開催費用予算)(注)	(300,000)		
学会誌保管料解約金	1,627		
ＵＦＪ銀行口座利子	30		

収入合計　　¥９，９７１，７７３　　**支出合計　　¥５，４６４，６０５**

収 支 差 額　　¥４，５０７，１６８

会計委員　角田哲康

（注：「グラシアン基金」は「2003年度からの繰越金」に、「大会開催費用予算」は、収入全体に含まれる金額を再掲しています。）

監査の結果、異常なきものと認めます。

２００５年　１０月　１日　　会計監査委員　寺崎英樹

２００５年　１０月　７日　　会計監査委員　三好準之助

２００４年度期末残高内訳	
ＵＦＪ銀行普通口座	¥４，２０２，９４２
郵便振替口座	¥２７６，２００
会長預かり現金	¥３，０２６
会計預かり現金	¥２５，０００
計	¥４，５０７，１６８

２００５年１０月８日

日本イスパニヤ学会
２００６年度会計案

収　入

会　費　（８０００円×３５０名）	２，８００，０００

計　２，８００，０００円

支　出

		２００４年度
１．学会誌・会報発行経費	９５万円	９０９，０７２円
２．大会開催費用	３０万円	３００，０００円
３．事務経費　（注１）	９０万円	（参考）８１１，６７１円（注２）
４．会議（理事会等）開催費用	６万円	３６，０５０円
５．庶務委員経費	６万円	６０，０００円
６．通信・交通費　（注３）	２５万円	２１４，２４４円
７．学会奨励賞　（注４）	１５万円	
８．その他	８万円	

計　２７５万円

収支差額　５万円

注１　（株）ガリレオに業務委託する経費
注２　２００５年日本学会事務センターが破綻したため、２００３年度において日本学会事務センターに支払った事務経費および業務委託費
注３　理事会開催等に伴う庶務委員等の交通費、関連する編集作業および郵送料金、その他
注４　２００６年度より新設

作　成
会計委員　角田哲康

【大会開催校一覧】

回数	年度	大会開催校
「日本イスパニヤ語学会」の名称で発足		
1	1955	東京外国語大学
2	1956	上智大学
3	1957	大阪外国語大学
4	1958	早稲田大学
5	1959	天理大学
6	1960	拓殖大学
7	1961	南山大学
8	1962	東京外国語大学
9	1963	神戸市外国語大学
10	1964	上智大学
11	1965	京都外国語大学
12	1966	小樽商科大学
13	1967	大阪外国語大学
14	1968	神奈川大学
15	1969	北九州大学
16	1970	神奈川大学
17	1971	京都外国語大学
18	1972	駒澤大学
19	1973	愛知県立大学
20	1974	東京外国語大学
21	1975	関西外国語大学
「日本イスパニヤ学会」と改称		
22	1976	清泉女子大学
23	1977	京都産業大学
24	1978	上智大学
25	1979	那覇市・都ホテル
26	1980	拓殖大学
27	1981	熊本商科大学
28	1982	神奈川大学
29	1983	南山大学
30	1984	東京外国語大学
31	1985	天理大学
32	1986	常葉学園大学
33	1987	小樽商科大学
34	1988	麗澤大学
35	1989	鹿児島経済大学
36	1990	清泉女子大学
37	1991	神戸市外国語大学
38	1992	神田外語大学
39	1993	摂南大学
40	1994	上智大学
41	1995	大阪外国語大学
42	1996	神奈川大学
43	1997	関西外国語大学
44	1998	拓殖大学
45	1999	京都外国語大学
46	2000	東京大学
47	2001	天理大学
48	2002	東京外国語大学
49	2003	立命館大学
50	2004	南山大学
51	2005	神田外語大学

来年度（２００６）

第５２回大会

同志社大学

今出川キャンパス

【他学会の紹介】

京都イスパニア学研究会第１４回大会

（京都外国語大学イスパニア語学科共催）
2005 年 12 月４日（日）　於：キャンパスプラザ京都２階第１会議室

10:55　受付
11:10～11:20　総会

研究発表
11:20～11:45　池田玲子「ボリビア１９９４年教育改革における先住民教育の成果
—異文化間バイリンガル教育と識字教育を通じて—」
11:45～12:10　ベナビデス共子 "El habla culta de la Gran Área Metropolitano de Costa Rica, de acuerdo con el *Proyecto de estudio coordinado de la norma lingüística culta del español hablado en las principales ciudades de Iberoamérica y de la Península Ibérica*, estudio promovido y vigilado por PILEI"
12:10～12:35　長尾直洋「ラテンアメリカをめぐる＜他者認識＞に関する一考察
—大航海時代から植民地期を中心に—」

12:35～13:35　—　昼食　—

13:35～14:35　講演Ⅰ（後援：スペイン大使館）
José Corredor Matheos（スペイン現代美術評論家・詩人）
"Pintura y poesía"

14:35～14:45　—　休憩　—

研究発表
14:45～15:15　敦賀公子「中米におけるナワ系言語の分布についての一考察
—16、 17、 18 世紀の資料より—
15:15～15:45　太田靖子「ホセ・フアン・タブラーダ
—日本の俳句にもっとも近づいたメキシコの詩人—」

15:45～16:00　—　休憩　—

16:00～17:30　講演Ⅱ
碇　順治（日西翻訳研究塾主宰・清泉女子大学ほか兼任）
「スペインの民主化とスアレスの業績を考える」
18:00～20:00　懇親会（於：アパホテル京都駅前地下１Ｆ「こはくの間」）

【自著紹介】

ベッケルをめぐって

山田　真史（小樽商科大学）

世の中の動きが何かと慌ただしい昨今では、もう古い話かもしれませんが、この場をお借りして、拙著と拙訳の紹介をさせていただきます。いずれも2002年の出版で、『物語を探して―ボルヘス、ベッケル、セルバンテスへの旅』（近代文芸社）、『スペイン伝説集』ベッケル著（彩流社）の二点です。前者は、日本とスペインの間を往復しながら書いた論考を集めたもので、ボルヘスの生誕百年を記念した論文、またセルバンテスの『ドン・キホーテ』前編第八章、つまりあの有名な「風車の冒険」を記号論的視点から読み解く試みなどを収めています。また、この二人の巨人に劣らない（と私には思えますが）ベッケルのわが国における知名度の低さを嘆きつつ、両者に挟まれる体裁をとって彼の作品「月光」などを詳細に論じ、ベッケルの文学を賞讃しました。

後者、拙訳書の方は、そのベッケルの『伝説集』を訳したもので、1996年にバルセロナに文部省の在外研究員として滞在し始めたときに着手しました。同地には、ベッケル研究の大家、ジョアン・エストルーク氏（『ベッケル全集』カテドラ社刊、2004年の編者）が在住しておられ、この方からさまざまな助言を得られたこと、またその人と親しい友となれたことは、私にとっても、訳書にとっても幸福なことでした。

2002年２月の朝日新聞・書評欄で松山巌氏（作家・評論家）に「・・・訳者はそこに注目し、香りの高い文章（殊に深い夜の描写は素晴らしい）をそこなわず、わかりやすい生き生きとした訳にあらためた」とおほめのことばをいただいたのは、思いもかけぬ喜びでした。また作家の川上弘美さんから「おもしろいものがこの世の中にあるなア、と感じ入っておりました。不思議でこわくて美しい話です」という読後感をいただいたのも大変うれしいことでした。川上さんばかりでなく、ベッケルの読者が、日本で一人でも多くふえてくれたらという気持ちです。どうか原書も、またよろしかったら合わせて拙訳書もお読みくだされば、有難く存じます。

なお、付け加えますと、この訳書は、ベッケル専門の国際的研究誌ＧＮＯＭＯ（2001-2002）に、「日本におけるベッケル」（ヘスス・コスタ氏）というタイトルで、紹介されました。

【自著紹介】

『ラテンアメリカ現代演劇集』(水声社、2005)

佐竹謙一(南山大学)編訳

ここに収録された作品はどれも本邦初訳である。ラテンアメリカ演劇は、50 年代に入ると商業演劇は依然として活気を呈していたものの、その一方でさまざまな手法による芝居が登場するようになった。いわば、これまでの色彩豊かな地方主義の殻をうち破り、欧米の舞台美術家、演出家、劇作家による新しい演劇の影響もあって世界的な劇芸術へと発展を遂げるようになったのである。

本書では、数多くの現代演劇の中から、こうした 50 年代、60 年代の作品に焦点をあて、営利を追求する芝居ではなく工夫を凝らした技法や舞台効果を狙った作品、あるいは人間のあり方について深く考えさせられる作品を紹介させていただくことにした。むろん多少なりとも欧米や同時代におけるラテンアメリカの小説の技法を採り入れたところもあろうが、ラテンアメリカ演劇としての風味は充分に伝わってくるはずである。

五編の内容は次の通りである。

(1) レネ・マルケス(プエルトリコ)『扇窓』(1958 年)

この作品では光の色を利用して「過去」と「現在」を表現し、無慈悲な「時の流れ」に抗えない人々の苦悩が描かれている。主人公は三人の老姉妹で、米国の営利主義と戦い続けるのだが、結果的にはその流れを阻止できず、すでに亡くなった妹の亡骸を屋敷内に抱えたまま、最後は家に火を放ち、みずから命を絶つという悲劇である。最後の火事は一族の罪を浄化するという意味においては象徴的だが、むしろこれは諸行無常という観念を受け入れられずに、「時との戦い」に挑む三姉妹の生き様を描いたものと言えよう。光の変化とフラッシュバックとの調和が功を奏し、過去の名声や栄華に執着することの虚しさが浮き彫りにされる。

(2) ホセ・トリアーナ(キューバ)『殺人者たちの夜』(1965 年)

これは不条理劇とも言われ、劇中劇を用いた作品である。作者は親子間の衝突、両者の力関係、両親殺害の願望といった問題に触れながら、抑圧する側である父と抑圧される側である子との確執を描く。若い兄ラロと二人の妹クカとベバが、ラロの発案で自分たちの両親を殺害するという「ゲーム」を演じるところから話が始まる。このゲームでは、途中三人が自分自身の役柄以外にも、両親、隣人、警察官、裁判官、検察官といった役を演じながら、息が詰まりそうな家族内のもめ事を舞台に映し出す。これによって両親が子供たちに対してとってきた抑圧的な態度や、自由な生き方ができずに圧迫感を感じている子供たちの気持ちが、三人の演じる複数の人物から明らかとなる。また同時に、両親の抱える問題や父と母の反目なども少しずつ観客に明かされていく。

(3) エミリオ・カルバリィード(メキシコ)『薔薇の解釈』(1966 年)

この作品は心理劇であるせいか、全体的にさほど動きは感じられない。また筋展開も単純で、列車の転覆事件をめぐり、さまざまの人たちが犯人である一人の少年と一人の少女の動機を探ろうとするものである。背景に設けられたスクリーンには、複数の象徴的イメー

ジが映し出され、各人物の説明内容と連動することになっている。心理学者、社会学者、新聞記者、市民の意見などが出てきて、それぞれの立場から、少年たちの事件前の心理状況および犯行にいたるまでの動機を説明するが、当然のことながら意見はまとまらない。つまり作者が言いたいのは、人間見方を変えればなんとでも説明がつくということ、また人の真意は測りがたいものだということである。このような事実誤認をとおして、言葉と理屈で答えを出しがちな現代人に、何らかの警告を発しているようにも思われる。

（4）カルロス・ソロルサノ（グアテマラ＝メキシコ）『神の手』(1956 年)

神の名のもとに、人々に信仰を強要し従来の権力を維持しようとするカトリック教会を尻目に、ほんの少しの幸せを希求する貧しい少女の心の葛藤をとおして、神の存在とは何か、人の幸福や自由とは何かを問う作品である。ここでは、貧困にあえぐ人々の内面的な弱さや問題意識の低さゆえに自由を謳歌できない点が問題視される。技法の面では、抑圧された民衆が言葉および個々の行動を奪われ、集団的なパントマイムの演技しかできなかったり、至福をもたらしてくれるはずの神が教会の主張する「神」ではなく、皮肉にも伝統的な「堕天使」であったりと、いろいろ工夫が見られる。

（5）エゴン・ウォルフ（チリ）『侵入者たち』(1963 年)

この国の社会的背景が色濃く反映されているだけでなく、チリのみならずラテンアメリカの国であれば、どの国でも起こりうるような内容の作品である。表向きは一部の有産階級に対する、大勢の虐げられた貧しい人々の反乱がテーマとなっているが、単に両者の対立だけを扱うのではなく、人間の思いやりも見所の一つであろう。またプロットに回帰という技法が用いられており、結末ではこれまでの事件展開がすべて主人公の夢だったことが明かされる。ところが目覚めるや否や、観客はこれが正夢だということに気づくのである。この回帰の意味するところは、金持ちの主人公の心の片隅に常に存在する、被抑圧者に対する後ろめたい気持ちが夢を通して具現したということである。

【スペイン、ラテンアメリカ関係新刊紹介】

（* 『会報』前号で紹介済みのもの、あるいは既刊書を一部含みます）

アルゲダス、ホセ・マリア（杉山晃訳）『ダイヤモンドと火打ち石』彩流社、2005
碇　順治『現代スペインの歴史』彩流社、2005
岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社、2005
京都外国語大学イスパニア語学科編『『ドン・キホーテ』を読む』行路社、2005
コミン・コミン、F.（林屋永吉監修、たばこ総合研究センター訳）
　『タバカレラ・スペインたばこ専売史 1638－1998』山愛書院、2005
佐竹謙一編訳『ラテンアメリカ現代演劇集』水声社、2005
サンペドロ、ラモン（轟志津香、宮崎真紀、中川紀子訳）
　『海を飛ぶ夢』アーティストハウス、2005
セルバンテス、ミゲル・デ（荻内勝之訳）
　『ドン・キホーテ』前編上・下、後編上・下、新潮社、2005
西川和子『フェリペ二世の生涯』彩流社、2005
原　誠他編『クラウン西和辞典』三省堂、2005
坂東省次、浅香武和編『スペインとポルトガルのことば』同学社、2005
坂東省次編『スペイン関係文献目録』行路社、2005
樋口正義他編『ドン・キホーテ事典』行路社、2005
プラサ、ホセ・マリア（金関あさ訳）
　『ラウルにあこがれてースペインサッカー少年の夢』穂高書店、2005
本田誠二『セルバンテスの芸術』水声社、2005
船越　博『VIVA!カナリア』創土社、2005
メノカル、マリア・ローサ（足立孝訳）『寛容の文化』名古屋大学出版会、2005
リンド、エルビラ（とどろきしずか訳、清水憲男監修）
　『めがねっこマノリート』小学館、2005
和佐敦子『スペイン語と日本語のモダリティ - 叙法とモダリティの接点』
　くろしお出版、2005
山田真史『物語を探して』近代文芸社、2002
山田真史『スペイン伝説集』彩流社、2002

【訂正とお詫び】

前号（『会報第９号』）巻頭言（小林一宏先生執筆）において、その第２段落後ろから数行のところに、１行脱落がありました。編集者（山崎）の校正ミスを深くお詫び申し上げます。脱落していたのは次の下線部分です。お手数ながらご訂正下さいませ。

・・・（中略）そして２度目の挑戦で上智大学に入学はしたものの、いま記憶にあるのは永田寛定と笠井鎮夫両先生の文法書２点と、ページ数こそ多いものの中味は辞書ではなく語彙集と言うべき１点があるだけだった。さらに上智での授業にしても教材は本ではなく、毎週 Ayúcar 先生から配られるプリントだった。（後略）・・・

【原稿募集】

本誌『会報』の原稿を募集しています。特に分野は問いません。下記のような項目など、スペイン語圏に関する原稿をどしどしお寄せください。

◇　国内外の学会の案内と報告
◇　国内の学術講演会・行事の案内と報告
◇　スペイン語圏に関する新刊書（和書・洋書）の紹介
◇　その他

（使用言語：日本語もしくはスペイン語）
（原稿分量：原稿用紙四百字詰 1000～1400 字）

【編集後記】

新年明けましておめでとうございます！という書き出しになるとは思いもしなかった『会報第 10 号』の編集後記です。大方の原稿は揃い、学会誌『HISPÁNICA』（Núm.49）との同時発送を予定していたのですが、肝心の第 51 回大会単独の会計報告入稿が遅れています。しびれ切れるも、編集者自らの不徳の故とお詫び申し上げます。次号に掲載ということでお許し下さい。その代わりというわけでもありませんが、面白い頁として、日本イスパニヤ学会の過去の大会開催校を一覧にしてみました。

本学会今年度最大の出来事は、堀田会長ご発案の「日本イスパニヤ学会奨励賞」創設が総会で認められたことです。他の諸言語に遅れをとることしきりでした。さらに理事会では、学会誌投稿規定、事務委託契約、『会報』の位置づけや内容について、あるいは理事および監査選挙内規の改定案、その他、が熱く審議されました。　（山崎信三）